

(1)



種をまく。

青少年赤十字福島地区指導者協議会長
福島市立福島第一小学校長

齋藤吉

一粒万倍

たくさんの実りをもたらす、
そんな期待を抱かせる学校公
開となりました。

を覚えていきます
今回、両校が目指したのは、「気づき、考え、実行する」

十月七日（金）、我が母校、福島市立松川小学校・松陵中学校を会場に開催された、第40回青少年赤十字福島県指揮官となりました。

導者協議会研修会並びに学校公開。当日は朝から快晴。二年間の両校の真摯な取組が天候さえも味方につけたようでした。福島県内外から三百名を越える皆様にご参加いただき、盛会裏に公開を終えることができたことに大きな安堵感がありました。JRCの「種まき」で、学校生活や自分の住む地域の暮らしを質的に向上させるために、自分たちができることについて「気づき、考え、実行する」場面が意図的に設定されました。それぞれの発達段階に応じた、JRCの「種まき」です。



編集発行

青少年赤十字

福島県指導者協議会
日本赤十字社福島県支部

〒960-1197
福島市永井川字北原田17
TEL024(545)7008

人間を救うのは、人間だ。
Our world. Your move.



青少年赤十字の理念を
子どもたちの姿に

福島市立

栗城智也

とができました。当日の子どもたちは、緊張よりも、多くのお客様の前で自己表現できることの喜びを味わうかのように、いつも以上に伸び伸びと主体的に学習に取り組んでいたようになります。まさに、「気づき、考え、実行」した半日ではなかつたでしょう。

全校児童四百一十三名が総割りで構成する三十六班に分かれてのなかよし班活動では、ゲームや奉仕的活動など班の計画に沿つて進められました。

島地区各学校の実行委員の先生方、お昼の豚汁をご準備いただいた佐倉赤十字奉仕団の皆様、会場校のPTAの皆様など、ご支援いただいた多くの皆様に謹んで御礼申し上げます。

学年集団だけでなく異年齢集団での交流活動は、新たな人間関係を育み、各年代の発達観を実感し次の行動へとつながるものと考えています。

研究授業では、全学年、学級活動を公開しました。参観後のご感想では、お褒めの言葉など肯定的なご意見を数多く頂戴し、恐縮したところです。学習過程で「気づき、考え、実行する」プロセスを重視することで、実践目標との関連を図りながら学級・学校におけるよりよい生活作りや人間関係の育成につながるものと考え実践を重ねてきました。

先行きの見えない社会の中で、一人ひとりの子どもたちに真に生きる力の育成を図ることで、青少年赤十字の役割はますます重要な役割になるとを考えます。教職員一同、参観された先生方から頂戴しましたご意見や感想等を、青少年赤十字の理念を生かした今後の実践に生かしてまいりたいと考えております。

貴重な研究機会を与えて下さいました関係機関の皆様、本実践を進めるに当たり、ご支援やご指導を頂戴しました多くの機関の皆様に心より感謝と御礼を申し上げます。

気づき・考え・実行する 児童の育成をめざして

福島市立松川小学校 研修主任 佐久間 美智子

本校は、青少年赤十字の研究推進校として二年間の指定を受け、研究主題を「気づき、考え、実行する児童の育成」、副主題を「赤十字の精神を生かした特別活動を中心に据えて」とし、教育活動を展開し

てきました。

まず、はじめに取り組んだのは、学級活動の活性化です。青少年赤十字の精神と学級活動は、特性や目標に多くの共通性があります。そこで青少年赤十字の実践目標や態度目標との関連を重ねてきました。

本校は、青少年赤十字の研究推進校として二年間の指定を受け、研究主題を「気づき、考え、実行する児童の育成」、副主題を「赤十字の精神を生かした特別活動を中心に据えて」とし、教育活動を展開し

てきました。青少年赤十字の精神と学級活動は、特性や目標に多くの共通性があります。そこで青少年赤十字の実践目標や態度目標との関連を重ねてきました。

二年次は、学級活動の授業で育んだ力を活かす実践的な場として、行事や児童会活動、縦割り等の交流活動の充実に力を入れてきました。

委員会活動では、ボランティア活動を位置付け、これまでの活動の見直しを図りました。「先生から言われたからやるのでは、本当の活動にならない。自分たちで決めて、自分たちで進んでやることに意味があるのでは。」という発言で始まつた代表委員会のあいさつ運動は、たちまち全校生に広がり、明るいあいさつの声が校舎内外に響くようになりました。また、委員会活動の掲示板を活用した情報発信は、各委員会の活動への関心を高め、感謝の気持ちをもつたり、

月に一回の縦割りの交流活動では、高学年がリーダーシップをとり、集団遊びやミニボランティアの計画・準備・運営に責任を持つて取り組んでもいました。回を経ることに、内容が工夫され、班のまとめが、取り組びつきが強くなりましたが、感謝の気持ちをもつたり、

意識調査の結果からは、自分や友だちのよさに目を向け、肯定的に受け止めている児童が増えていていることや学校や友だちのために自分ができることをいつもやろうとしている児童の割合が増えていることが分かり、研究の成果がうかがえました。

青少年赤十字研究推進校となり、何から始めたらよいのか、まさに手探り状態で進めた研究ではありましたが、教職員一丸となり、赤十字の



精神を学び、「気づき・考え・実行する」児童の育成に、で
きたことは、現在の子ど
もたちの生き生きした表情や

姿に表れていると思います。これからも様々な教育活動に青少年赤十字の精神を活かし、教育目標の具現化に取り組んでいきたいと思います。

地域の一員として



福島市立松陵中学校長

金子洋



人が地域の一員として地域のためにできることがあること、「気づき」、何ができるかを「考え」、地域のために「実行する」ことが、青少年赤十字の基本理念と合致した実践で参りました。

農業体験、町行事への参加など、関係団体の皆様のご協力により様々な活動を行ってきました。

研究公開では、各委員会が実践の概要や成果と課題を発表し合い、お互いの活動内容を共有することができます。

「松川町を変えたい」「地域のために何かできないか」という生徒たちの熱い想いからスタートした地域交流活動です。生徒が地域に出かけたり、地域の方々に来ていただいたりするなど、地域社会との連携・交流を図ることにより、豊かな学びの機会・場としたいと考えました。そして、その活動の中で、生徒一人一人

具体的には
一年生から二

この研究実践を通して、生徒たちは地域の一員として、地域のために何ができるかを主体的に考え、地域の現状やニーズに気づき、具体的な形で実行に移すことができまし

た。また、分科会では、貴重なご意見やご助言をいただきましたこと、そして、本校の活動に対して称賛の言葉をいただきましたことに深く感謝申し上げます。

地域との関わりを通して



より様々な活動を行つてきました。研究公開では、各委員会が実践の概要や成果と課題を発表し合い、お互の活動内容を共有することができます。活動時間の確保や活動への想いの継承など課題はあります
が、この地域交流活動をしつかり根付かせていきたい
と思います。

た。そのことが地域の方々を
受け入れられたことで、成就
感や達成感を得ることもで
き、新たな活動への意欲にも
つながっています。また、今
回の研究公開に、町商工会の
会長さんと副会長さんが飛び
入りで参加していただいたこ
と、ご招待した関係団体の
方々に数多く参観いただけた
ことは、地域との絆が深まつ
てきました表れと大変嬉しく感じ
ています。

本校が、研究の柱とした
とが二つあります。一つは
「地域交流活動」です。中学
生という年代は、社会に対一
て視野が広がっていきます
が、自分の住む地域に対する
関わりが薄れていく傾向にも
あります。本校でも地域との
関わりを大切にしたいと考
え、取り組んできましたが、
なかなか効果的な手立てを自
いだせずにいました。

「地域交流活動」は、我々教師にとっても、この解決していく生徒主体の活動として、大変有効に機能しました。活動は初めての試みで「気づき、考え、実行する」ことを意識して取り組みました。また、生徒の主体的な活動を促すには、教師が待ちの姿勢を保つことが大切であることを共通認識として進めました。

が考えていた以上に地域の方からの反響があり、地域の期待を生徒が肌で感じることができました。生徒は成就感や達成感を得ることができ、やればできるという有能感も生じました。

研究の柱のもう一つが、地域交流活動を支える「奉仕」

の心の育成です。青少年赤十字の実践目標の一つである「奉仕」に着目し、道徳・学級活動で重点的に取り上げて豊かな心と実践力を持つ生徒を育成しようと図ったものであります。「地域交流活動」という生徒共通の取り組みを土台として他者への思いやりや郷土

私たちの地域交流活動

福島市立松陵中学校 三年 渡 辺 南



松陵中学校では、昨年度から地域交流活動を行っています。地域交流活動の始まりは、当時の生徒会長の気づきからでした。前会長は、一昨年に開催された全国生徒会サミットに参加しました。参加者共通の課題として出たキーワードが「つながり」だったそうです。そこで、前会長も自分の住む松川町について考え、私達中学生の力で地域のためにアクションを起こしたいと強く思ったそうです。最初は、そんなことできるわけないとか、生徒会本部役員や

各専門委員長だけでやればいいのではないかという意見もありました。しかし、前会長は全校生でやらなければ意味が無いと考え、全校集会で「一緒に松川を変えよう」と、全校生に熱く訴えかけました。そして、土曜授業の時間を使い、これまでに四回の地域交流活動を行ってきました。幼稚園訪問や、老人クラブの方との読書交流など様々な面で地域の方々と触れ合うことで松陵中生は大きく成長することができました。活動から、多くの気づきを得て、一

愛などを考えることができます。大変効果的でした。

今回の取り組みは、生徒の大きな成長として結実しました。これからも松川地区との関わり大切にした取り組みを推進していきたいと思います。



人ひとりが真剣に郷土について考えアクションを起こすことができました。これは、この活動をやつていなかつたらできなかつた経験です。この活動は、自分たちの気づきから始まつた主体的な活動です。これからも継続して取り組んでいきたいと思います。

青少年赤十字作品募集 『詩』・『100文字提案』



青少年赤十字作品募集『詩』・『100文字提案』

青少年赤十字作品募集は「青少年赤十字活動の活性化と意識を高める」と目的にして平成十八年から今年度で十一回目の募集となります。平成二十四年からは、海外の赤十字から寄せられた救援金で行われている「東日本大震災復興支援推進事業」の一つとして実施されています。

審査員の労力と時間をかけて慎重に行われ、各賞が決定しました。社長賞等を含む、最優秀賞、学校賞、学校奨励賞の表彰式は十二月二十六日（月）に日赤県支部において受賞者とその保護者、審査員、学校関係者が参加して行われ、野崎洋一事務局長から受賞者に賞状と盾が手渡されました。式の中で受賞作品が本人から披露され、感慨深いものとなりました。最後に藤田伸朔審査委員長から各受賞作品についてそれぞれ温かい講評があり、これからのお目標や励みになつたのではないか。今年度も積極的に応募いたいたい学校、適切なご指導を頂きました指導者の方々、たくさん応募いたいたい児童、生徒の皆さんに感謝と御礼を申し上げます。社長賞、支部長賞、青少字贊助奉仕団委員長賞を受賞した四人の方々から受賞の感想をいただきました。

ふるさと

福島市立福島第一中学校 三年 庄司 礼室



私があの百文字に込めた思
いはたくさんあります。自分
の生まれた育つた故郷に帰り
たいと願う気持ち、けれど今
は人などおらず、静かな寂し
い村となつてゐる現実を受け
入れ心に穴があいた様な気持
ち。また、村へ戻れるその日
まで今は力強く生きようと自
分に言い聞かせる気持ちなど
様々です。

私の故郷は震災で多大な被
害を受けた飯館村です。自然
豊かで美しかつたあの村も、
以前と変わらぬ暮らしをする
ことを。信じてゐるから強く
生きることが出来るのだと想
います。今は何の手助けも出
来ませんが、この故郷に戻り
たいという小さな願いが復興
へと繋がる一步だと思つていて
ます。もちろん、帰りたいと
思つてゐる人は、私の他に山
ほどいます。その方々も今を精
一杯に歩んでいます。負け
ないよう生きています。私
は強く生きます。何にも負け

「福島・日本・世界のために
わたしがしたいこと、
できること」

声がしない町
誰もいない町
私のふるさと
夷りたい 夷れ
ても今は 精一
強く生きるだけ
願いが届くその
この一瞬を過ご
待つててね
私のふるさと

杯に 日まで そう

ないよう。待つてゐる故郷のため。今回この賞を頂き、より強く思いました。今私に出来ることを、全力でやり、そしてより大きく成長して自分になり故郷へ戻りたいです。故郷は待つていてます、強くなつた私を待つていてます。そのための震災だったのです。だと、私は思います。

たつた一つの命と家族

小野町立浮金小学校 六年 大和田夏紀



日本赤十字社福島県支部長賞

「いのちの詩・愛の詩」

小野町立浮金小学校
六年 大和田夏紀

東日本大震災、私は、どれほどの人が家族を亡くしてしまったのか、考えてみました。調べてみると、たよりもはるかにたくさんの人が家族を亡くしてしまっていました。そんな中、私には、父も母も妹もいて、命がありました。震災では、家族がそばにいて、共に生きていてくれることのありがたさが、とてもよく分かりました。これらも大切な一つの命を大切にし、地域の人たちにたくさん笑顔を分けて、幸せいきたいです。



どうしてつて
命があるから
お母さん達が
命があるから
つないでくれた
だから 地域の人には
いいさつを返せる
笑顔を分けられる
これからも
笑顔をふりまいて
たつた一つの命を
大切にしたい

いのちの大切さ

福島県立白河旭高等学校 一年 森 拓海



人の力だけでは維持できず、自分の強い意志が合わさって成立するものだと思いります。

私は、このいのちの詩を書いて、改めていのちの大切さを感じました。

私にとっていのちとは、他

強い意志と良き仲間を持つて生きることが大切です。これからもがんばりたいです。

いのちとは
ただ生きることではない
ちからづよく
生きることである

青少年赤十字福島県指導者協議会長賞
「いのちの詩・愛の詩」

福島県立白河旭高等学校 一年 森 拓海

蛙とおどろきの再会

郡山市立富田東小学校 四年 志田 柚季

福島県青少年赤十字賛助奉仕団委員長賞
「わたしが感動したことばやできごと」

郡山市立富田東小学校
四年 志田 柚季



た。蛙の住みなれた田んぼが宅地に変わり、遠くへうつてしまつたのでは? と、あきらめていたので、家庭でまた会う事が出来た時は、とてもおどろきました。これからも、自然との関わりを大切にしていこうと思います。

生き物が好きな私は、中でも蛙が大好きです。つかまえて観察したり、夏の夜に鳴き声を楽しんだりしてきました。

肌寒い四月の朝、風もなくパンジーの葉がゆれていた。そつとかき分けると「あつ、蛙だ!」田んぼが消えて、もう会えないと思つて、庭に冬眠してくれていたおどろきと私の心も「びょん」とはねた。



今回の国際交流集会は、青少年赤十字の実践目標の一つである「国際交流・親善」のもと「防災教育・災害対応」をテーマに行われました。アジア太平洋の国と地域からと日本全国から集まつたメンバーが八人程度のHRにわかれ、自分の国に起つた災害について発表し合い、ディスカッションが始まりました。初めは国について考えていました。

関心を高め、防災に取り組む」ことを世界中のJRCの仲間と力を合わせて取り組んでいきましょう。～百人の二歩は一人の百歩に勝る～

A group of students sitting on the grass in a park, with one student in the foreground holding a red and white flag.

したが、メンバーが仲良くなれるにつれ目の前にいる友達がとても困った状態になるのではないかという具体的なイメージになり、より思いやりのある人道的な行動を考えるようになつたのはとても嬉しく思います。

本の生活習慣やホストファミリーとの友好を深め忘れられない思い出を作ることが出来たのではないかと思います。

見学し、原発事故や除染の様子、風評被害などについて学んだあと県内のJRCメンバーと一緒に交流しました。書道や着付け、生け花など日本文化に触れ、またフィリピンの青少年赤十字の様子や民族舞踊を披露するなど互いに充実した交流をすることが出来ました。

平成二十八年度青少年赤十字国際交流事業における海外青少年赤十字メンバードの受け入れに伴い、フィリピンから二人のユースメンバーが福島にやってきました。震災以

「Tokyo 2016」に参加して

福島県立福島東高等学校 松本 仁子

フィリピンユースメンバー福島訪問

震災以降六年ぶり

フィリピンメンバー

Jeff Michael

(男子 16歳 キリノ総合高等学校 高等部)

• 10歲少女想當的小丑

(女子 19歳 ミンダナオ国際大学)



フィリピンメンバー福島での日程

10月29日（土）	●福島着 福島市内	●除染プラザ見学 ホームステイ	●四季の里（こけしの絵付け）
10月30日（日）	福島市内	●県北JRCメンバーと駅前清掃 ●県北JRCメンバーと交流会（浴衣の着付、書道、フィリピンの民族舞踊）	ホームステイ
10月31日（月）	郡山市内	●あさか開成高等学校（授業参加 華道・書道） ●中央学習センター JRCメンバーとの交流会（調理、昼食、日本の伝統遊び）	ホームステイ
11月1日（火）	福島市内	●県立光南高等学校（行事参加 JRCメンバーとの交流）	ホームステイ
11月2日（水）		●福島第一小学校（避難訓練、給食試食） ●学法福島高校（クラブ見学）	●福島東稜高校（授業参加、学校見学） ●日赤病院見学
11月3日（木）		●福島発 オリンピックセンター	



大学で日本語を勉強しているダニカと民族舞踊のインストラクターも務めるジエフ、な二人は初日から福島のメンバーと一緒にかく明るくフレンドリイで踊るなど、あつという間に福島のメンバーに溶け込みました。一方で除染プログラザでは真剣に説明に耳を傾け、質問をするなど積極的に福島の現状について学ぼうとする意欲がみられました。

フィリピンメンバーを受け入れて

福島東稜高等学校 二年 氏家 るな

平成二十八年度青少年赤十字国際交流事業 “Tokyo 2016”に参加をするため、日本に訪れたフィリピンメンバーアイーさんが一週間福島県での過ごしました。そのうちの三日間、私の家にメンバーのひとりのダニカさんがホームステイをしました。

最初の日は、ダニカさんの歓迎会をしました。日本の食事が食べられるが、親がたくさん料理を作ってくれました。ダニカさんが日本食をおいしそうに食べててくれたので、ホッとしました。



次の日は、朝少し早く起きて、私の家の広場へ行きリンゴ狩りをしました。コツが分かると楽しそうに採ってくれて良い経験になつたと思いま

す。その後、M S (福島駅前清掃)をしてから福島成蹊高校で県北のJ R Cメンバーとの交流会をしました。朝採つたリンゴは交流会の昼食でみんなと一緒に食べました。ジェフ君に、ダニカさんがリンゴを採つたと伝えると驚いていました。

最終日の夜は、二日後
がダニカさんの誕生日
だったので誕生日会とお
別れ会をしました。誕生
日会はサプライズだったので
とても嬉しかったらしく、ダ
ニカさんが泣いていました。
フィリピンメンバーを受け

うするのかや誕生日会に何をするか、どんな体験をさせてあげようなど少しの時間で何をするかたくさん家族会議をしました。また家族も私も英語があまり話せないので不安でした。しかし、ダニカさんは日本食が好きで日本語も話すことができたのでとても安心しました。

第五十七号には学校公開の児童・生徒の様子、一〇〇文字提案の受賞者の声などを掲載しました。子ども達の生き生きした姿を感じて頂けるのではないかでしょうか。お忙しいところ原稿をお寄せいただきました方々、協力頂きまして皆様に感謝申し上げます。



き、私も家族もとても感謝しています。また機会があれば良いなと思います。ありがとうございました。

あ
と
が
き



赤十字救急法受講の状況について

青少年赤十字の実践目標の一つに「健康・安全」があります。今年度多くの学校、団体が赤十字救急法を受講しました。(平成29年1月31日現在)

月日	学校・団体	受講者	人数
基礎講習			
7月20日	尚志高等学校	JRC メンバー	21
7月25日	白河旭高等学校	JRC メンバー	29
7月25日	福島成蹊高等学校	生徒（2年生）	23
8月10日	県北地区高等学校青少年赤十字指導者協議会	県北地区 JRC メンバー	20
8月22日	福島成蹊高等学校	生徒（2年生）	41
8月23日	福島成蹊高等学校	生徒（2年生）	36
8月23日	福島県磐城第一高等学校	JRC メンバー	26
8月23日	東日本国際大学附属昌平高等学校	JRC 部員	12
養成講習			
8月10日	県北地区高等学校青少年赤十字指導者協議会	県北地区高校 JRC メンバー	20
8月11日			
8月12日	福島県磐城第一高等学校	JRC メンバー	26
8月23日			
8月24日	東日本国際大学附属昌平高等学校	JRC 部員	12
8月25日			
短期講習			
5月27日	白河市立みさか小学校	教職員	22
5月31日	郡山女子大学附属高等学校	生徒（3年生）	122
6月8日	郡山市立高瀬小学校	児童、保護者、教師	86
6月9日	青少年赤十字田村地区指導者協議会	田村郡・田村市内小・中学校教職員	44
6月9日	郡山市立朝日が丘小学校	教職員、保護者	54
6月11日	郡山市立東芳小学校	保護者、教員	67
6月12日	いわき市立好間第一小学校	保護者	20
6月13日	青少年赤十字東白川地区指導者協議会	教職員	20
6月14日	郡山市立緑ヶ丘第一小学校	教職員	24
6月14日	福島県立白河第二高等学校	生徒、教職員	24
6月15日	郡山女子大学附属高等学校	教職員	25
6月15日	いわき市立草野小学校	保護者、教職員	35
6月23日	青少年赤十字西白河地区指導者協議会	JRC 指導者（教師）	37
6月23日	白河市立信夫第二小学校	5・6年児童、保護者、教職員	40
6月24日	白河市立白河第二小学校	教職員、保護者	52
6月24日	会津若松市立一箕小学校	教職員、保護者	55
6月24日	棚倉町立高野小学校	教職員、保護者	72
6月27日	福島市立余目小学校	教職員	10
6月28日	矢吹町立三神小学校	保護者	48
6月28日	三春町立三春中学校	生徒（3年生）	111
6月29日	三春町立三春中学校	生徒（2年生）	117
6月29日	福島市立福島第一小学校 PTA 教養委員会	保護者	15
6月29日	郡山市立永盛小学校 PTA	保護者、教職員	71
6月30日	三春町立三春中学校	生徒（1年生）	122
6月30日	いわき市立錦東小学校	教職員、保護者	27
6月30日	郡山市立桜小学校	教職員、保護者	52
6月30日	郡山市立高倉小学校	教職員、保護者	26
6月30日	白河市立五箇小学校	教職員、保護者	30
6月30日	郡山市立行健小学校父母と教師の会	保護者、教職員	22
7月1日	郡山市立行健第二小学校	教職員、保護者	54
7月1日	西郷村立羽太小学校	5・6年生、教職員、保護者	54
7月1日	二本松市立洪川小学校 PTA	5・6年生、教職員、保護者	80
7月1日	本宮市立白岩小学校	6年児童、保護者、教職員	92
7月2日	田村市立瀬川小学校父母と教職員の会	教職員、保護者、児童	45
7月2日	郡山市立安子島小学校	教職員、保護者	35
7月2日	いわき市立小白井中学校	教職員、保護者、中学生	15
7月3日	国見町立国見小学校	保護者	52
7月4日	郡山市立栄宮小学校 PTA	保護者、教員	75
7月5日	郡山市立橋小学校父母と先生の会	保護者、教職員	26
7月5日	郡山市立安積第一小学校	保護者	38
7月5日	福島市立平田小学校	教職員、保護者	27

月日	学校・団体	受講者	人数
7月5日	伊達市立小手小学校	保護者、教職員、児童	46
7月6日	郡山市立守山小学校	保護者、教職員	36
7月6日	会津若松市立日新小学校	教職員、保護者	28
7月6日	福島市立森合小学校	教員	23
7月6日	本宮市立和田小学校	保護者、教職員	75
7月6日	二本松市立原瀬小学校	教職員、保護者	24
7月7日	福島県高等学校青少年赤十字指導者協議会	JRC メンバー（高校生）	61
7月8日	福島県高等学校青少年赤十字指導者協議会	JRC メンバー（高校生）	18
7月8日	三春町立中郷小学校	保護者、教職員	49
7月8日	福島市立下川崎小学校	教職員、保護者	26
7月8日	三春町立三春小学校	教職員、保護者	47
7月8日	三春町立沢石小学校	保護者、児童、教職員	93
7月8日	福島市立子山小学校	児童、保護者、教職員	38
7月8日	福島市立松川小学校 PTA	JRC メンバー保護者、教職員	130
7月9日	田村市立要田小学校	教職員、保護者	45
7月9日	白河市立白河第五小学校	教職員、保護者	73
7月12日	郡山女子大学附属高等学校	生徒（1年生）	90
7月12日	郡山市立富田東小学校	保護者	49
7月12日	鏡石町立第二小学校	教職員、保護者 5・6年児童	74
7月13日	郡山市立二瀬中学校	JRC メンバー、教職員	47
7月13日	福島市立大森小学校	教職員	26
7月13日	猪苗代町立緑小学校	保護者、教職員、6年児童	60
7月15日	須賀川市立岩瀬中学校	JRC メンバー、教職員	158
7月20日	須賀川市立大森小学校	教職員、保護者	13
7月20日	郡山市立熱海中学校	教職員	13
7月25日	白河市立白河第三小学校	教職員、保護者	36
7月27日	青少年赤十字耶麻地区指導者協議会	小学生、中学生、教職員	69
7月28日	県立郡山養護学校	教職員	47
7月28日	県北地区青少年赤十字指導者協議会	①児童 ②小・中学校教師、高校生、奉仕団員	32
7月29日	県立郡山萌世高等学校	教職員	40
7月29日	青少年赤十字会津若松・北会津地区指導者連絡協議会	JRC メンバー、教職員	74
7月29日	青少年赤十字両沼地区指導者協議会	JRC メンバー	79
7月29日	青少年赤十字いわき地区小中学校指導者協議会	JRC メンバー、教職員賛助奉仕団員	77
8月9日	青少年赤十字郡山地区指導者協議会	小・中学生	78
8月10日	会津地区高等学校青少年赤十字協議会	会津地区 JRC 生徒、教職員	25
8月17日	青少年赤十字西白河地区指導者協議会	小・中学生、教員、保護者	42
8月24日	福島市立西信中学校	教職員	19
9月1日	白河市立信夫第一小学校	児童（5・6年生）、教職員	45
9月13日	いわき市立江名中学校	中学生（3年生）	67
9月13日	相馬市立中村第一中学校	1年生	61
9月14日	相馬市立中村第一中学校	1年生	62
10月25日	白河市教育委員会	白河市立小・中学校の養護教諭	12
11月29日	福島市立西信中学校	2年生	60
水上安全講習			
6月25日	郡山市立薰小学校父母と教師の会体育館	保護者	67
7月5日	大玉村教育委員会	教職員ほか	25
7月8日	須賀川市立白江小学校	保護者	44
7月9日	大玉村教育委員会	教職員ほか	12
7月13日	熟塙加納赤十字奉仕団	熟塙加納赤十字奉仕団員・生徒	59
7月15日	郡山市立薰小学校プール	教職員	14
7月21日	本宮市立本宮まゆみ小学校プール	教職員	9
8月2日	国見町・国見町赤十字奉仕団	児童	54
9月8日	浅川町立山白石小学校プール	児童、教職員	31
9月12日	いわき市立好間第一小学校プール	児童	47
健康生活支援講習 支援員養成講習			
4月4日 ・5日	青少年赤十字県北地区高等学校指導者協議会	県北地区高校 JRC メンバー	30
健康生活支援講習 短期講習			
8月9日	青少年赤十字福島県指導者協議会	JRC 加盟校指導者	65
健康生活支援講習 災害時高齢者生活支援講習			
7月7日	田村市立船引南中学校	1年生	24